日本ユーラシア協会とは
旧ソ連邦に住む諸国民との
相互理解と友好を進める
（旧）日ソ協会の統一した名
称です

日本とユーラシア
JAPAN-EURASIA SOCIETY

愛知版　No.584

（ニュース、投稿は下記へ）
〒461-0004
名古屋市東区葵1-22-26
日本ユーラシア協会愛知県連合会
電話　052-932-7211

メールアドレス　eurasia_aichi@yahoo.co.jp　ホームページ　http://nichiyu2015.webcrow.jp

イワノフカ少年少女アンサンブル歓迎交流会
日本最後の夜に、歌と踊りで交流
7月7日（土）17時30分～20時　民主会館2階ホール

7月7日（土）、ロシア・アムール州のイワノフカ村からやって来たのはイワノフカ芸術学校の10名の子どもたちと引率の先生や村長さんで総勢13名でした。NPO法人ロシアとの友好・親善をすすめる会が招へいして実現した今回の日本訪問でしたが、あいにくの全国的な豪雨で揖斐川町や鈴鹿市での小中学生との交流会が中止となり、唯一開催されたのは揖斐川町地域交流センターで開かれたコンサートだけでした。日本ユーラシア協会での歓迎交流会がPO法人ロシアとの友好・2回目で最後のステージということで子どもたちは熱心に素晴らしい歌や踊りを披露してくれました。

【写真】合唱団「ミール」

杉浦会長の歓迎のあいさつの後、イワノフカ村の村長さんからイワノフカ芸術学校についての説明があり、111人の子供達がピアノやバヤーン、絵やダンスなどを習っているということでした。

イワノフカ少年少女アンサンブル

まず、県連から合唱団「ミール」が「カチューシャ」、「鐘の音は単調に鳴り響く」、「小さなぐみの木」、「ロシアーわがふるさと」を歌いました。続いてイワノフカ少年少女アンサンブルのホフロマ塗りの木のスプーンを打ち鳴らしての演奏「おお雪よ、雪ん子よ」、2曲目、3曲目はは民族楽器の演奏で「ロシア間奏曲」と「カマリンスカヤ」、続いて女の子がワレンキというブーツをはいて登場、踊りながらユーモラスな格好でワレンキを脱いでいきます。5曲目はイワノフカ村の歌「イワノフカ」を全員で合唱し、最後は「カリンカ」の独唱と踊りでした。

NPO法人ロシアとの友好・親善をすすめる会会長の横山周導さんの乾杯の音頭の後、用意された食事や飲み物を飲みながら、イワノフカの子どもたちへのインタビューが行われました。みんな日本はきれいで、親切な人ばかりでとても楽しいと言っていました。

ロシアとの友好親善をすすめる会
会長　横山周導さん

予定の時間を過ぎてもみんなで歌を歌い時のたつのを忘れるほどでした。（田口龍司）

「イワノフカ」を歌う少年少女アンサンブル

南山大学でロシアウィーク開催
7月2日（月）～7日（土）

7月2日から7月7日まで南山大学に於いてロシア・ウイークが開催されました。この催し物は元々ロシア語に関する講座などを置いていなくて、ロシアとはなじみの薄い南山大学が、今年の5月にロシアのハバロフスクにある太平洋国立大学と交流協定を結びその一環として企画されたものです。以前よりこの企画に関して南山大学から愛知県連に協力依頼があり、25年前に南山大学に於いて第36回日本ユーラシア協会の全国総会が行われた誼もあり、また日本ユーラシア協会の絶好の宣伝の機会であると捉えて県連として全面的に協力することを決めました。男性用、女性用あわせて10着程度の民族衣装を試着用として貸し出し、ロシアの民芸品といえば定番のマトリョーシカを5点、ホフロマ塗りのスプーン、またサモワール3点等を展示し、さらに南山大学の方からロシアの物産品を販売してくれないかとの依頼もあり、このフェアの全期間を通じて安原理事長を先頭に県連の会員諸氏が宣伝・販売に奮闘しロシア・ウイークの雰囲気を盛り上げました。また期間中の7月4日（水）には太平洋国立大学の学生及び教員との交流会が催され、そこではミール合唱団に出演要請がありカチューシャ、鐘の音は単調に鳴る、小さなグミの木、ロシアわが祖国の4曲を日本語、ロシア語を取り混ぜて歌い好評を博しました。なお来年以降もこのような催し物を企画するよう南山大学当局に申し入れを行いました。

【写真】南山大学で展示・販売

第29回ロシア語特別講座開催
9月30日（日）10時～16時
愛知民主会館にて

恒例の夏のロシア語特別講座が今年は9月30日（日）午前10時から午後4時まで愛知民主会館で開催されます。

午前中は各自自分のレベルにあったテキストを選び、先生の指導で1時間の練習の後、参加者全員の前で朗読する朗読大会です。

午後からは今年の特別講師でサンクトペテルブルク出身の田中エカテリーナ先生に「言葉を学ぶ、教える：ロシア、ベルギー、日本での私の体験」と題して講演していただきます。

田中先生はサンクトペテルブルク文化大学で日本語を専攻され、高校の英語教師や日本語ガイドをしておられました。その後日本人と結婚してベルギーに5年間滞在、フランス語も習得されたとのことです。ご自分とお子さんたちの言葉の習得を通しての体験をお話ししていただきます。

プログラムの最後の授業は初級クラスはブレンコーワ先生のやさしいロシア語会話、中級クラスは山崎先生の文法復習、上級クラスは田中先生の会話の予定です。

受講料は2500円です。（会員と受講生は2000円）

第5回平和を探る旅
「無言館」への旅を実現させよう
10月31日（水）23名で実施

10月31日（水）に予定しているの戦没画学生慰霊美術館「無言館」へのバス旅行ですが、今回は遠隔地ということもあり、参加者が23名以上集まらないと実施されません。

ぜひ、お知り合いの方を誘って多数ご参加くださるようお願いいたします。

参加費　8500円（昼食代は各自負担）

申込期限　9月28日（金）15時まで

午前8時　地下鉄「本郷駅」出発

午後7時　地下鉄「本郷駅」帰着（予定）

あいち・平和のための戦争展
8月16日（木）～19日（日）
市民ギャラリー矢田・東文化小劇場ホール

今年も「戦争展」は東区の市民ギャラリー矢田で8月16日（木）から19日（日）まで開催されます。

1953年、広島の市民ら約8万8000人が出演し、原爆が投下された直後の惨状が再現された映画「ひろしま」が今回デジタルリマスター版として、名古屋で初めて上映されます。上映券1000円（戦争展入場料込み）で見られます。

ユーラシア協会も日ロ平和条約と領土問題、シベリア抑留問題、イワノフカ村住民虐殺事件などの展示を行います。是非お出かけください。

入場料　一般500円（高校生以下、障がい者無料）

楽しくて、おいしくて、勉強にもなる「ペチカ」
ウクライナ料理「ゴルプッツィ」と「じゃがいものバター和え」

6月9日（土）、東生涯学習センターの料理室で第17回ペチカの例会が開催されました。今回は17名が参加、ウクライナのジトーミル出身のウクライナ人・川口リュドミラさんにゴルプツィ（ロールキャベツ）、じゃがいものバターあえ、キャベツのサラダの作り方を教えていただきました。

ざっとゆでたキャベツの葉にひき肉とよく炒めた玉ねぎと人参、さらにご飯を加えたものを包んでトマトソースで煮込みます。この間にじゃがいもを一口大に切ったものをゆでてバターをまぶし、さらに細かくきりたディルをまぶすと「じゃがいものバターあえ」が出来上がり！　千切りのキャベツにサラミの細切りと缶詰のグリンピースを加え、たっぷりのマヨネーズであえるとおいしいサラダができました。

【写真】楽しく調理中

リュドミラさんはウクライナ国旗とお手製のひまわりと麦の穂の大に切った飾りを持参され、試食のテーブルは色鮮やかなロールキャベツやディルの香りと共にすっかりウクライナの雰囲気に。日本語が堪能なリュドミラさんでしたが、この日はウクライナ語講座のダツェンコ先生や講座の生徒さんも参加され、日本語、ウクライナ語、ロシア語がにぎやかに飛び交いました。楽しくて、おいしくて、勉強にもなる、すばらしい「ペチカ」、次回は秋に開催の予定です。

（服部　和）

【写真】出来 上がった料理

投稿

ワールドカップ観戦記

柴田正義

6月14日、w杯ロシア大会が開会した。初戦のロシア対サウジアラビアは5－0でロシアが圧勝。ルジニキスタジアム、モスクワ大学に設置されたファンフェストは、熱気に包まれた。

日本の予選スケジュールは、19日コロンビア戦（サランスク）、24日セネガル戦（エカテリンブルグ）、28日ポーランド戦（ヴォルゴグラード）。私は、FIFAが用意した無料列車と通常の有料列車を利用し、モスクワ→カザン→サランスク→エカテリンブルグ→モスクワ→ヴォルゴグラード→モスクワ、という順で旅程を組んだ。

17日午前にカザン入りし、カザン・クレムリンを訪れた。イスラム教と正教の混在と言われているが、モスクと教会の間には“壁”がは通常の有料列車を利用し、モスクワ→カザン→サランスク→エカテリンブルグ→モスクワ→ヴォルゴグラード→モスクワ、という順で旅程を組んだ。

17日午前にカザン入りし、カザン・クレムリンを訪れた。イスラム教と正教の混在と言われているが、モスクと教会の間には“壁”が敷かれ、とても混在とは言えない。日本代表キャンプはブルーシートで覆われ、部外者は完全に遮断されている。

エカテリンブルグ・アリーナ

20日早朝にエカテリンブルグへ移動。今大会で最も日本人サポーターが集まった都市だろう。街の中心に沸いている、“ロシア”のイメージを覆す都市である。到着時の気温は38度。試合時の気温は42度に上った。美しきヴォルガ川に近寄るほど虫が増える。日本人サポーター間で、虫よけスプレー情報が重宝された。

試合は、ブーイングの中、0－1でポーランドに惜敗。フェアプレーポイント差でセネガルを上回り、辛うじて決勝トーナメント行きを決めた。

予選グループを終え、多くの日本人サポーターが帰途に着いた。今回のw杯は、“おそロシア”のイメージを、一転させた。ロシア・サッカー好きの私にとって、今大会は、日本代表の勝ち・負け・引き分けを同時に味わいつつ、多くの日本人サポーターをロシアの魅力へと誘う、感動と満足に溢れるものとなった。

セネガルのサポーターと筆者

18日深夜にサランスクへ移動。カラフルなマンションが不自然に立ち並び、コロンビア人で溢れる街並みに、“ロシア”を感じさせるものは全くない。黄色一色のスタジアムの中で、日本代表は貴重な勝ち点3を手にした。滞在届け等で苦労しながら宿を手配した日本人と、至るところで野宿するコロンビア人の対比がよく映える。気温32度。

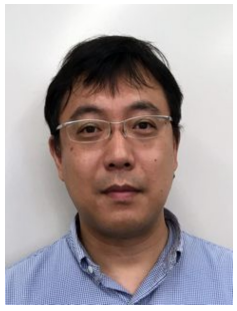
20日早朝にエカテリンブルグへ移動。今大会で最も日本人サポーターが集まった都市だろう。街の中心には観光用の赤線が巡らされている。赤線をたどる日本人たちと挨拶を交わし、試合前に1905年広場に集結した。セネガル戦は力の入る接戦だった。難敵相手によく勝ち点1を獲得したと思う。気温26度。一旦モスクワに戻って荷物整理をし、その日の夕方便でヴォルゴグラードに移動。ステップ気候で蚊・蚋・蠅が大量に沸いている、“ロシア”のイメージを覆す都市である。到着時の気温は38度。試合時の気温は42度に上った。美しきヴォルガ川に近寄るほど虫が増える。日本人サポーター間で、虫よけスプレー情報が重宝された。

ヴォルゴグラード
（母なる祖国像）

総会記念講演

「社会主義革命史研究のすすめ」①
理念と体制とを分けて考えるのがポイント

名古屋大学大学院法学研究科講師　中山　顕



今日お話しする「社会主義革命史研究のすすめ」というのは、実は名古屋大学にたくさんいるウズベキスタンから来ている留学に向けてロシア革命の歴史をちょっと研究してみると面白いよということで作った報告をもとにアレンジして今日お話しさせていただきます。

今日の話の内容なんですが、私は大学で1917年のロシア革命史の研究をしておりまして、それを学生にもすすめるという話だったわけですが、自分なりにもどういう視点からアプローチしていくか、どういう視点からの研究を進めていくかというのをごく最近になって認識するようになりました。

話の筋としては三つほど考えておりまして、一つは社会主義についてです。ごく存知のように91年にソ連邦が崩壊するわけですね。この事実は多くの社会主義法研究者にとって大きな衝撃でした。ソ連政治研究者の塩川伸明さんは91年の社会主義の破産というふうに表現しておりまして、これに対して従来からソ連邦を研究対象としている研究者仲間を、三つの態度があると指摘しました。一つは虚脱感にとらわれていたグループ。二つ目はさっさともう社会主義を捨てて、新しい時代に向かって研究を始めた人たち、三つ目はいまだ社会主義に未練を感じている人たちと三つに分けているわけです。塩川さん自体はこの立ち直りと未練のはざまで逡巡しているという印象を受けましたが、今はどういうふうに評価されているかはわかりません。私もこの研究をやっていると、何で今更100年前のロシア革命をやるのかとよく聞かれるわけです。自分なりにも何でやるのかがはっきりしておりません。未練があるわけでもないし、だけどもう社会主義体制は終わったんだということで切り捨ててしまっていいのかと。私の専門分野は法律ですので、法の原理でとらえてしまっていいのかという、そういう問題意識が強くありました。私自身も未練と立ち直りのはざまで揺れているというスタンスなんだろうなと思います。少なくとも虚脱という感覚はないですね。すでに物心ついた時には社会主義体制というのは崩壊していたという事実がありましたので、それほど積極的にコミットしていた訳ではないないです。それでもう一つ、塩川さんが指摘していることで、これは自分にとってもですね重要な視点だと思ったのが、理念と体制との間に歪曲といういろんな政治的な問題もあるでしょうし、歴史的な観点からも様々な形で歪曲が生じて、それが体制として表れていたと。理念と体制とを分けて考えるというのは社会主義をどうとらえるかという面で重要なポイントだろうと思います。

2点目として歴史なんですが、歴史をどう学ぶか、認識するかということです。杉浦会長の紹介文の中に歴史の科学的認識みたいなことが書いてありましたので、これは参ったなあと思いましたが、何とかそちらに近づけるような報告にしようと、一応私なりの科学的な歴史認識についても少しまとめておきたいと思った次第です。

次に3点目なんですが立憲主義、あとで歴史をどう見るかという話にかかわってくるんですけれども、何か一つ自分の研究スタイルに筋を通すとしたら立憲主義という観点、そういう観点からロシア史、ロシア革命史を再考すると、こういうことを近年強く感じておりまして、その場合に立憲主義って何なんだろうということを考えておかなきゃいけない。立憲主義から次第に社会主義の問題へと論を進めていきます。

（次号へ続く）

愛知県民主会館建設基金募金応募者敬称略）

（6月1日～6月30日）

中山　顕　田口龍司
中村幸枝　長瀬宏子
市川春季　加藤雅春
西尾光弘　藪見武彦

合計７７、６２０円

ありがとうございました